

## 助産師のリスキリング ～オンデマンド配信学習を用いた長崎県助産師会との協働

松井 香子<sup>1</sup>・永橋 美幸<sup>2</sup>・江藤 宏美<sup>2</sup>

保健学研究 35 : 23-28, 2022

**Key Words** : リスキリング, 助産師, オンデマンド, イーラーニング

(2021年12月27日受付)  
(2022年1月11日受理)

### I. はじめに

「助産師」は保健師助産師看護師法において、厚生労働大臣の免許を受けて、「助産又は妊婦、じよく婦若しくは新生児の保健指導を行うことを業とする女子をいう。」と規定されている。少子高齢化社会の現在、年間出生数は年々減少を続け、2019年には86万5,239人となりこれまでの最少出生数となった<sup>1)</sup>。また2020年は、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、母胎への影響や新しい家族を迎える事への様々な不安、雇用に関連した経済不安を持つ人が増加し、ますます少子化は深刻化していくと予想されている。

就業している大多数の助産師は医療施設で勤務しており、主に周産期領域でその役割を担っているが、上述したように社会情勢が目まぐるしく変化する中、助産師の役割や実践能力として求められるものも徐々に変化してきている。公益社団法人日本助産師会は「助産師のコア・コンピテンシー」<sup>2)</sup>とは、日本の助産師に求められる必須の実践能力であるとし、『倫理的感応力』、『マタニティケア能力』、『ウイメンズヘルスケア能力』、『専門的自律能力』の4つの要素から構成されているとしている。このようなことから、助産師は周産期の女性や家族への支援のみならず、思春期や更年期等といった、すべての女性の生涯における様々な健康問題に対して、より女性とその家族のメンバーが健康的な生活が送れるようにサポートする役割が、今後はますます重要になってくると思われる。昨今では、職を離れることなく職種に必要なスキルを磨く「リスキリング」<sup>3)</sup>が注目されている。助産師の個人的興味・関心による学習や職業上必要な知識・技術の向上、学び直しにとどまらず、社会情勢に応じ、助産師に必要なとされる様々なスキルも常に変化していくという考え方も拡がりつつある。長崎大学生命医科学域リプロダクティブヘルス分野では、一般社団法人長崎県助産師会と協働し、コロナ禍の現状でも助産師に向けて継続した学びの機会を提供したいと考え、eラーニ

ングコンテンツを利用したオンデマンド研修を実施した。本活動報告では、2020年度、2021年度前半のオンデマンド研修の概要、受講者へのアンケート調査の結果、課題や今後の取り組みについて述べる。

### II. オンデマンド研修の概要

#### 1. eラーニングコンテンツの企画・配信について

助産師会のコアコンピテンシーをベースに検討し(図1)、eラーニングコンテンツについて、社会情勢上必要な知識や助産師自身に関心の高い分野について内容を決定した。講師を決定後、学内の施設で動画の撮影を実施した。1科目の時間数は概ね90分になるように講師に依頼した。2020年度、2021年度に配信した科目については、表1に示す。

科目の配信期間は1科目につき約1か月間とし、就業している助産師が余裕をもって、計画的に視聴ができるように開講した。また月ごとの配信を見逃した場合を考慮し、約2週間全科目の再配信を行う期間を設けた。

#### 2. 受講者の募集について

オンデマンド研修開催のリーフレットを作成し、一般社団法人長崎県助産師会の公式ホームページへの掲載、メーリングリストによる広報を行った。また本研修は全国の助産師に向けたものでもあるため、一般財団法人日本助産評価機構からアドバンス助産師<sup>4)</sup>に向けたメーリングリスト(研修情報のご案内)においても広報を依頼し、配信してもらった。

受講の流れとしては、受講希望者は研修費の口座振り込み後、一般社団法人長崎県助産師会の研修受付担当者へ研修申し込みを行う。その後、実務担当者から、研修受講のためのマニュアルの送付、ユーザー名、初期パスワードの通知を行った。2020年度は長崎県助産師会会員42名、県内非会員助産師24名、県外助産師15名、延べ81名が受講した。また2021年度前半は長崎県助産師会会員

1 長崎大学生命医科学域非常勤

2 長崎大学生命医科学域

活動報告

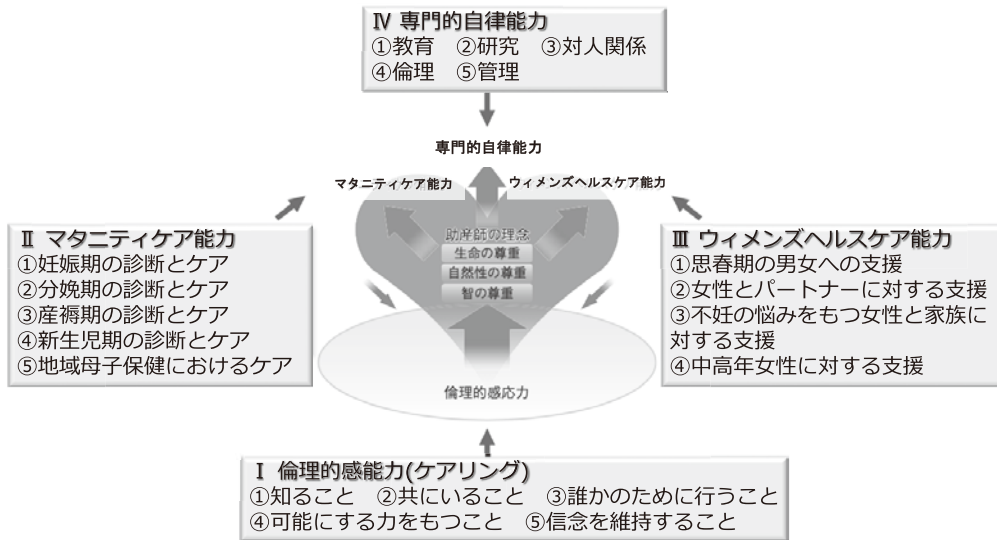


図1. 助産師のコア・コンピテンシー（臨床実践能力）の構造

\* 日本助産師会のコア・コンピテンシー (<https://www.midwife.or.jp/midwife/competency.html>) に能力項目を加筆

表1. 配信したeラーニングコンテンツ

【2020年度配信科目】*2020年7月13日から2021年1月11日まで配信		
科目1	プレコンセプションケア ～低用量ピル・性感染症について～	講師：中山安彩美氏
科目2	発達障害のある子どもとのコミュニケーションと家族の支援	講師：岩永竜一郎氏
科目3	妊娠中および授乳中の母子の薬剤について	講師：青木 幹弘氏
科目4	災害に備える意識と助産師ができること	講師：早瀬 麻子氏
【2021年度配信科目】*2021年5月1日から2021年8月31日まで配信		
科目1	乳児の発達と発育について ～運動発達を中心に～	講師：鶴崎 俊哉氏
科目2	助産師も知っておきたい遺伝のはなし	講師：佐々木規子氏
科目3	豊かな人生のための性と生	講師：中村まり子氏
科目4	マナーとコミュニケーション～信頼関係を築くために～	講師：山崎 紀子氏

表2. アンケート調査項目

調査時期	質問項目	回答方式
受講前	【受講者の背景】 Q1. ご年齢についてお答えください Q2. ご職業についてお答えください	多肢選択式
	【研修を知ったきっかけ】 Q3. どのようにしてこのオンデマンド研修を知りましたか（複数回答）	
	【オンデマンドについて】 Q4. (2020年のみ実施) 受講方法説明を理解し、オンデマンド研修へのアクセスは出来ましたか	
	【講義内容について】 Q5. 講義内容は理解しやすかったですか Q6. 講義内容は満足のいくものでしたか Q7. この講義はあなたにとって有用でしたか	
各科目後	【オンデマンドの評価】 Q8. オンデマンド研修の費用について Q9. オンデマンド研修を受講してみて、総合的な評価をお答えください	自由回答
受講後	【希望する研修内容】 Q10. 今後希望する研修の内容について、自由にご意見をお書きください	

が29名、県内非会員助産師8名、県外助産師151名、延べ188名が受講した。

### 3. 受講時のサポート体制について

オンデマンド研修は受講者がPC、タブレット端末、スマートフォン等を利用し、Wi-Fi環境があれば、いつでもどこでもアクセスが出来るようになっている。昨今ではITリテラシーの向上に伴い、オンデマンド研修へのアクセスや視聴もスムーズになってきているが、動画閲覧に関するトラブルや受講者からの問い合わせについて実務担当者1名が対応を行い、受講者の学習意欲を継続できるようにサポートを行った。

### 4. 受講者へのアンケート調査の実施について

オンデマンド研修受講者に対し、科目終了時にWeb上で回答できるアンケート調査を作成し協力を呼びかけた。アンケート調査の目的は、受講者の受講に関する率直な意見や感想をもとに、次に向けてより良い配信科目の企画を行い、よりスムーズに受講できるための改善点を知ることである。アンケート内容を表2に示す。科目1（最初の科目）の配信時に共通の質問としてQ1からQ4を、各科目後に講義内容に関するアンケート項目Q5からQ7の3つを設け、理解しやすさ、満足度、有用性について尋ね、科目4（最後の科目）の配信時にQ8からQ10によって受講後の評価を得た。なお、Q1～Q9については多肢選択式、Q10は自由記載式とした。アンケート調査結果については後述する。

### 5. 研修修了証の発行について

全科目の視聴を修了した受講生に対し、科目ごとに「研修修了証」を発行した。本オンデマンド研修は、2015年より開始されたCLoCMiP®（助産実践能力習熟段階）レベルⅢ認証制度は助産師の助産実践能力を審査し、一定の水準に達していることを認証する制度への新規申請や更新申請を行うアドバンス助産師を支援する。また、研修修了証の発行は、自身のポートフォリオとして助産師が自らの目標を持ち、獲得した能力や成果を蓄積するためにも有効であると考えられる。

## Ⅲ. アンケート調査結果

### 1. 受講者の背景

2020年と2021年に実施したアンケート結果（図2-1）より、受講を希望した助産師は40代が最も多く、50代を合わせると全体の55～67%を占めた。これは前述したアドバンス助産師の認証を持つ助産師が、自身の認証更新のために、本オンデマンド研修の受講を希望したものと考えられる。受講者の内訳は、ほとんどが医療機関で就業する助産師であったが、市町職員や教員、助産師養成コースの学生も含まれていた。オンデマンド研修の周知について、長崎県内の助産師については一般社団法人

長崎県助産師会のホームページや配布したパンフレットを閲覧し受講申込みをする人が多かった。県外の助産師については日本助産評価機構が配信するメーリングリストを通じて研修の実施を知り、申込みをされる場合がほとんどであった。2020年度のみ実施した、オンデマンド研修へのアクセスについては、87.9%がスムーズにできたと回答していた。

### 2. 講義内容について

調査結果（図2-2）より、ほとんどの受講者が講義内容は「理解しやすかった」、「満足だった」、「有用であった」と回答した。講義内容の理解度について「どちらともいえない」と回答した人の割合がやや多かった科目を見てみると、2020年度では「妊娠中および授乳中の母子の薬剤について」、2021年度前半では「助産師も知っておきたい遺伝のはなし」が挙げられた。助産師が業務の中で日常的に遭遇することが考えられる内容ではあるが、これまで体系的に学ぶ機会が少なく、内容が少し難しく感じられたのではないかと考えられる。また講義内容が自分にとって有用かどうかについて「どちらともいえない

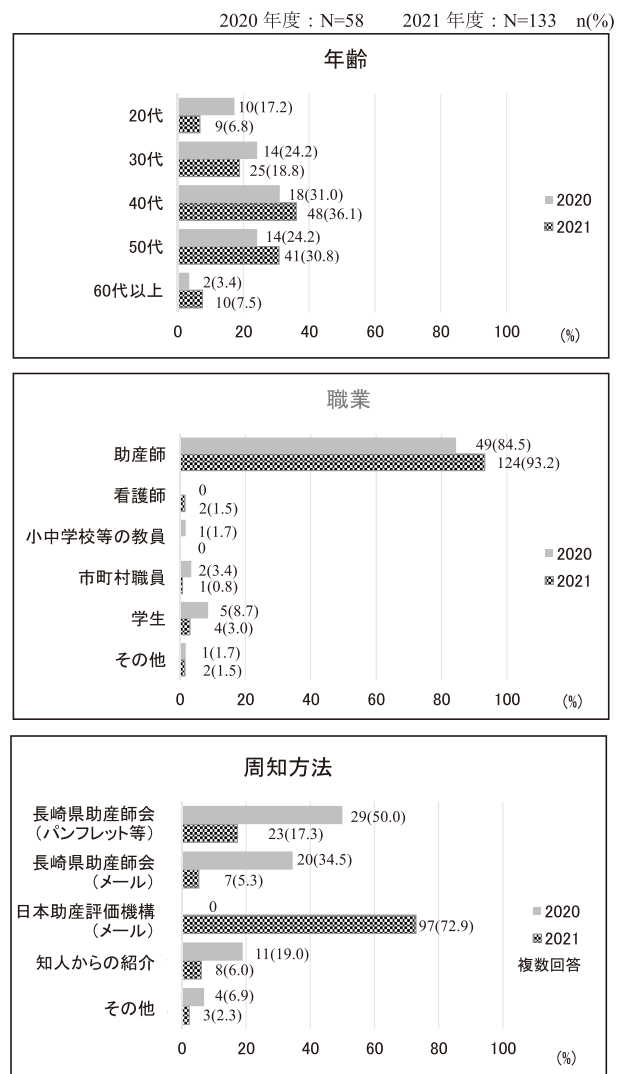


図2-1. 受講前の調査結果：受講者の背景

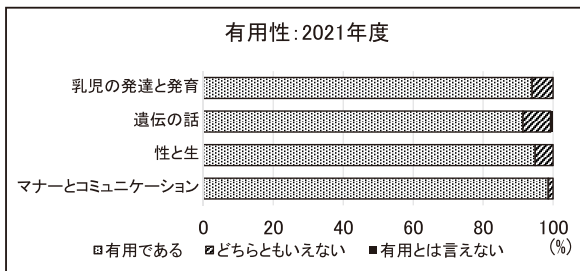
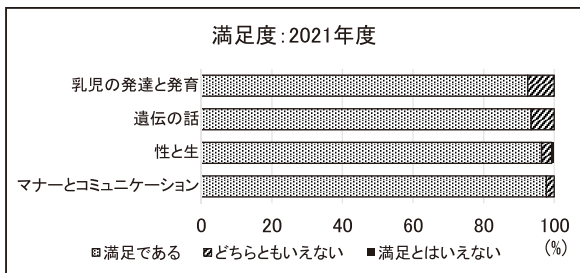
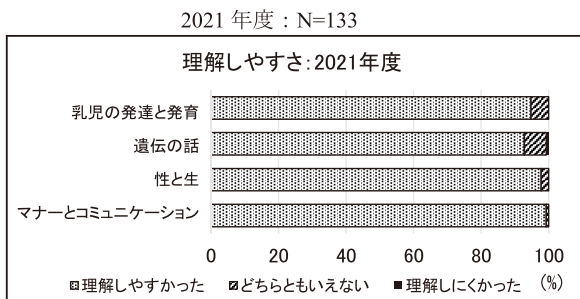
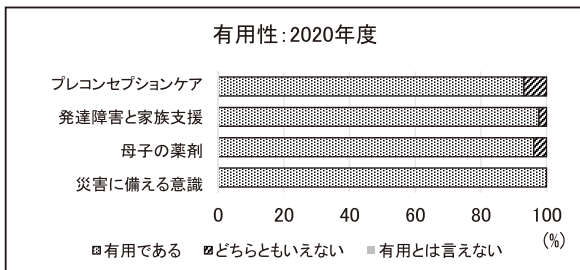
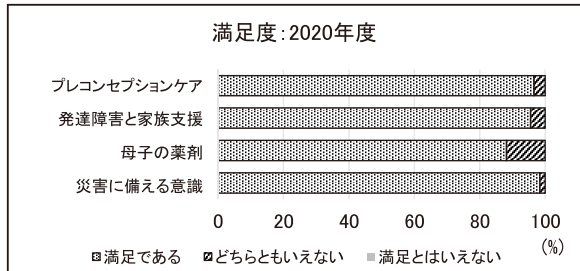
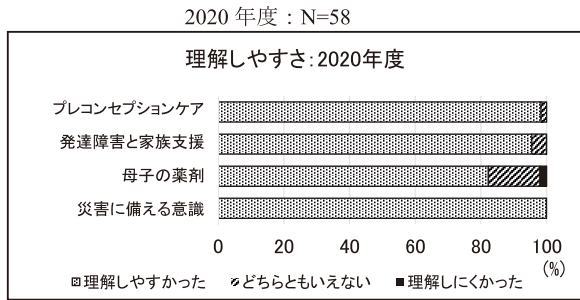


図2-2. 受講後の調査結果：  
受講内容に関するフィードバック

い」と回答した人の割合がやや多かった科目を見てみると、2020年度では「プレコンセプションケア～低用量ピル・性感染症について～」、2021年度前半では「乳児の発達と発育について」、「助産師も知っておきたい遺伝のはなし」が挙げられた。自分の通常業務と関連が少ない内容については、「有用である」とは感じにくいのではないかと考える。

### 3. オンデマンド配信や今後の研修について

オンデマンド研修の受講費は、長崎県助産師会会員は4科目3,000円、非会員は5,000円、学生は無料とした。また県外の助産師は5,000円と設定した。2020年度、2021年度前半ともに、90%以上の人が費用について「妥当」、「安い」と回答した。

オンデマンド研修を受講してみたの総合的な評価として2020年度、2021年度前半ともに、約98%の人が「とても良かった」、「良かった」と回答した。

今後希望する研修の内容や受講そのものについて、自由記載とし、受講者の率直な意見を尋ねた。以下、2020年度受講者からの意見を一部紹介する。

- ・災害について知識が十分でなく、大変勉強になりました。非常時より準備を行っていくことが重要であり、勤務先での対策も考えていききっかけにしていきたいと思います。
- ・他県の助産師も受講できた。研修を受けに行くのが困難な時期でもあり、また、小さい子どもがおり、研修に参加するのが難しく研修参加はあきらめていたが、自宅でも受けられるので大変勉強になった。
- ・産後ケア実務者研修の対象講座があると嬉しいです。
- ・もし可能であれば質問の対応などもできるようにするといいなと思います。講義準備だけでなく配信の準備などとても大変かと思いますが、私には本当にありがたい研修でした。

以下、2021年度前半の受講者からの意見を一部紹介する。

- ・今回オンデマンド研修に参加し、様々な分野の研修が受講でき大変満足しています。今後も助産師の必修はもちろん大切ですが、「人として」「円滑なコミュニケーション・コミュニケーションスキル」「対人関係の形成」などアサーティブな研修もとても魅力的だと思います。
- ・オンデマンド配信なので、1單元ごとに切って配信していただけるのはとてもありがたかったです。
- ・オンデマンドで好きな時間に視聴できるので便利でした。
- ・オンデマンドだと他県からも参加しやすいので、今後も続けてほしい。
- ・今回目的をもって研修参加をしましたが、日々業務に関わる中、視野を広げるために、容易に興味あるテーマ等が検索&受講できるように情報発信してい

ただけるとありがたいです。同時に、常にアンテナを高く持てる心持であるような度量があるといいなと感じました。

- ・どの研修内容も普段、なかなか受講できないものでした。時間配分も適切でしたし、1か月開講してくださったことは、自身の状況で受講でき、本当に助かりました。今後もこのような機会に接することができると思います。
- ・全科ともに、分かりやすい内容であった。とても興味深く拝聴しました。今後の助産師活動において参考になりました。

#### IV. 今後に向けて

新型コロナウイルス感染症の蔓延の影響により、対面での研修開催が自粛される中、インターネット環境を利用したオンデマンド研修は、助産師のリスクリングとして一定の効果が得られ、今後も大きなニーズがあると考えられる。長崎県内の助産師はもとより、全国の助産師が学習できる機会を作り、日々学び続ける支援について考えていくことの重要性を感じている。また、オンデマンド研修であっても、講師への質問が出来、疑問点などの解消のために双方向のインタラクティブができるような体制づくりも必要であると考えた。

#### 文献

- 1) 内閣府：令和3年版 少子化社会対策白書 第1部 少子化対策の現状 第1章少子化をめぐる現状  
2 出生数、出生率の推移  
<https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/whitepaper/measures/w-2021/r03pdfhonpen/pdf/sl-2.pdf> (2021年12月11日アクセス)
- 2) 公益社団法人日本助産師会：助産師のコア・コンピテンシー 2021  
<https://www.midwife.or.jp/midwife/competency.html> (2021年12月1日アクセス)
- 3) 経済産業省：リスクリングとは－DX時代の人材戦略と世界の潮流－.経済産業省,  
[https://www.meti.go.jp/shingikai/mono\\_info\\_service/digital\\_jinzai/pdf/002\\_02\\_02.pdf](https://www.meti.go.jp/shingikai/mono_info_service/digital_jinzai/pdf/002_02_02.pdf) (2021年10月1日アクセス)
- 4) 一般財団法人日本助産評価機構：アドバンス助産師  
<https://josan-hyoka.org/advanced/overview/> (2021年12月1日アクセス)

# Reskilling in midwifery: Collaboration with Nagasaki Midwives Association using On-demand learning system

Yoshiko MATSUI<sup>1</sup>, Miyuki NAGAHASHI<sup>2</sup>, Hiromi ETO<sup>2</sup>

1 Nagasaki University, Institute of Biomedical Sciences, part-time instructor

2 Nagasaki University, Institute of Biomedical Sciences

Received 27 December 2021

Accepted 11 January 2022